

その3 高校生の住生活に対する考え方

大阪大 ○今井京子 奈良女子大
 武庫川女大 貴田康乃 滋賀県短大

國嶋道子
 榊原典子

目的および方法 その1に同じ。

結果 その3では高校生の住生活に対する考え方について検討を行なった。住居については、楽しむ場より休憩の場としてとらえ、便利な所よりも周囲環境のよい所に住みたいという回答が多く、現在の住居を住みよくすることを考えるよりも将来どんな家に住みたいかを考えることの方が多いと答えられている。また、家庭生活については、家族個人の生活を尊重するよりもお互いに交流し、話し合いごものごとを決めることとする考え方が多く、近所づき合いもやっかいの方がよいとしている。さらに、住生活の具体的内容として、家族の集まり方、接客、家事などについて尋ねたところ、食事以外で家族が集まって同じことをしやすきことは現状では少ないが、望ましいとする回答が多い。夕食時での家族の集まり方も、全員がそろうと答えたのは半数前後であるが、希望として80%近くが全員そろうことを望んでおり、夕食がだんらんの中心的役割を果たすことを希望している。接客については、普段の生活の中でもなすとし、食事中に台所が見えることなどについても見えないようにすることよりも便利さを重視していることがわかる。家事については、夕食後のあとかたづけは家族で分担して行ない、私室の掃除も使う人がすべきだとする考えが多く、また、住まいや地域環境などを考える機会についても家族で話し合うことを希望する意見が多くみられた。